

## 【平成28年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 算数科における平成27年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・担任・担当教員による補充学習や放課後・土曜の補習学習、矢東タイムでの計算練習などに取り組んだことにより、技能に関しては区目標値・区平均値を上回っている。
- ・教員が補習学習の対象児童を決定するようになり、計算・作図を中心とした技能の伸びや学習習慣の定着がみられるようになってきた。
- ・既習事項を活用して問題を解決する力が不十分である。既習事項を活用した授業を常に意識した授業展開を心がける必要がある。
- ・学んだことが確実に身に付くような授業を考えていく必要がある。

#### 算数科における調査結果の分析

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
領域別結果の分析	・4, 5, 6, 年ともに目標値を大きく上回っている。基礎的な計算の技能が昨年度に引き続き高まってきている。東京ベーシックドリル、ステップ学習の積極的な活用の成果だと考えられる。	・4, 6年は目標値を大きく上回っている。5年は目標値を上回っているが、区平均より下回っている。面積の意味、面積の求め方、角の意味、角の測り方などの基礎的な理解が不足していると思われる。	・4, 5, 6年ともに目標値を大きく上回っている。いろいろな形をただ覚えるだけではなく、形の特徴や性質を丁寧に調べてまとめていく活動を授業で取り入れている成果だと思われる。	・4, 5年は目標値を大きく上回っている。6年は、目標値を上回っているが、区平均より下回っている。6年の百分率とグラフは、内容を具体的にイメージすることが難しく、時間をかけて復習することとで理解を深める必要がある。
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
観点別結果の分析	・どの学年も算数の授業では意欲的に取り組もうとしている。学習したことを活用して問題解決する授業を取り入れ、できる・分かる楽しさが実感できるような手立てが必要である。	・4, 5, 6年ともに目標値を大きく上回っている。思考力を高める授業を継続してきた成果だと思われる。 ・問題構造を把握する力の向上を目指し、図のかき方を指導するなど、継続して取り組む必要がある。	・4, 5, 6年ともに技能の力が高い。全体的に一定の基礎計算力は育っているといえるが、表・グラフ・図形等の作図に課題がある児童もいる。	・学年や個にもよるが、知識が不十分で活用できない、または、知識の使い方が分からず活用できないのいずれかの課題がみられる。 ・既習した内容を積極的に活用した授業に改善していく必要がある。

#### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 「算数が好き」という児童の意欲を尊重し、どの児童もできる・分かる授業を目指す。  
→多くの児童がもつ「算数が好き」の気持ちを高めるため、充実感・達成感を得られる授業の工夫をする。
- 2 学習内容を理解した上での確かな力の定着を図る。  
→既習事項を活用して自分が解答を導き出すためにしたことを説明したり、友達の考えをきいたりすることによって、学習内容の意味の理解を促す。
- 3 面積や体積の意味を確実に理解させる。  
→図形の学習以前の「かたちあそび」等の小単元の指導を工夫したり、単元導入時の算数的活動を充実させたりして、量感・図形の構造等にかかわる基礎的な理解を高める。

#### 算数科の具体的授業改善策

##### ○算数に対する意欲を尊重して、できる・分かる授業を展開するために

- ・既習事項を活用して、自力で問題解決ができる手立てや工夫を授業に取り入れて実践する。

##### ○学習内容を理解した上での確かな力の定着を図るために学び合い活動を取り入れる

- ・どの児童も自力解決することができる手立てを考える。
- ・自分の考えを表現し、友達の考えを学べる場面を設ける。

##### ○図形の構造をとらえる力を高めるために

- ・量感が身に付くよう、実際にはかる・任意単位を敷き詰めて数えるなどの体験を積ませる。
- ・立体図形は、性質を体験的に理解できるようにするため、実物を切り開いて展開図にする・それを組み立てて辺や頂点の位置関係を確かめるなどの活動を取り入れる。